

令和6年度第2回小金井市教育プラン検討会議事日程

令和7年3月26日(水)

午後6時開会

開催日時	令和7年3月26日	開会 6時00分	閉会 8時00分
場 所	第二庁舎8階 801会議室		
出席委員	会 長 末松 裕基	委 員 新井しのぶ	
	会長職務代理者 大津 雅利	委 員 嶋内 和博	
	委 員 黒木 智道	委 員 中村 光志	
欠席委員			
説明のため出席した者の職氏名	教育長 大熊 雅士	統括指導主事 田村 忍	
	学務課長 笹栗 秀亮	指導室指導係長 前川 智一	
	庶務課長 鈴木 功	庶務課庶務係長 小平 文洋	
	指導室長 平田 勇治	庶務課庶務係主任 大久保 知佳	
傍聴者人数	なし		

議事内容
(1) 児童・生徒アンケート調査結果報告
(2) 今後の日程について
(3) その他

末松会長

皆さんこんばんは。本日は年度末のお忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。定刻になりましたので、ただ今より令和6年度第2回小金井市教育プラン検討会議を開催いたします。

このあと、事務局から配付資料の説明をしていただきますが、前回から少し時間が空きましたので、本日の内容についてイメージを持った上で、ご説明いただきたいと思っています。

前回、皆さんにご検討いただいた、子どもたちのアンケートを実施した結果が出ております。現行の第3次プランの内容について、法律で決まっている行政の第三者評価で行政の点検・評価があります。そこで現行の課題などについて、私たちが把握することもできますが、それだけでなく小金井市は子どもたちの声をしっかりと聞いて、第4次の計画に生かしていくという特徴があります。

本日は皆さんからアンケートの内容についてご意見を出していただいて、お互いに意思疎通を図りながら、次期改定に向けて問題点やこれまでの成果や、次期計画に向けたポイントを出していただくと有意義な会になると思っています。皆さんのお考えや声が子どもたちの声と同様に大事になると思いますので、率直な疑問や質問、ご不明な点などありましたら、積極的にご発言をいただければと思います。会議は1時間半くらいをめどに考えておりますので、進行にもご協力いただけますと幸いです。

では、事務局から配付資料の説明をお願いします。

鈴木庶務課長

お手元の資料をご覧ください。資料1が、今年1月下旬から2月上旬にかけて実施した児童・生徒アンケートの結果である「小金井市教育プラン策定にかかるアンケート調査報告書(案)」となります。資料2は、資料1の結果を受けて分析を行った「児童・生徒アンケート調査からみる現行計画の評価」となります。資料3が、前回会議後に提出があった、「意見提案シート」となります。資料4が、今回会議等のスケジュールを示した「小金井市教育プラン検討会議の日程(案)」となります。なお、前回の会議録はホームページに掲載いたしますので、ご確認をお願いいたします。以上です。

末松会長 過不足等はございませんか。それでは、議事次第をご覧ください。
議事1「児童・生徒アンケート調査結果報告について」、事務局から説明をお願いいたします。

鈴木庶務課長 資料1「小金井市教育プラン策定にかかるアンケート調査結果報告(案)」の1ページをご覧ください。第1回の検討会議でもお伝えいたしましたが、本調査は、本市の市立小中学校生の学校生活や取組、悩み相談の状況、部活動の移行、希望する学習メニューなどを伺い、第4次教育プラン計画策定を見据えた基礎資料とすることを目的に実施いたしました。調査対象は、市立の小中学校の5、6年生と中学校1、2年生の全生徒、約3,500人としています。調査期間が1月15日から2月17日までで、調査方法はURLを配布し、WEB調査といたしました。回収率はおおむね8割となっています。設問数については、当初予定していた調査に要する時間よりも短時間で終わることを見通せたため、選択問題を含めて34問として、最後の設問では、前回の検討会で要望があった自由記述欄を設けました。

報告書の見方について、事業者から説明をお願いいたします。

委託事業者 結果報告書に基づいて、資料の説明をさせていただきます。
回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、割合を出し、小数点以下第2位を四捨五入したものです。単数回答でも合計値が100%にならない場合もあります。また複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計は100%を超える場合もあります。図や表の中で無回答とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数、ご回答いただいた方の人数を表しています。本文中の設問の選択肢は簡略化している場合もあります。

続いて、具体的なアンケート結果の概要をご説明いたします。2ページをご覧ください。まず、「基本属性について」です。

問1では、性別をお聞きしています。全体では男性51.3%、女性47.6%、その他が1%です。学年別集計を見てもおおむね同様の結果となっています。

問2の学校名についてですが、小学校では第三小、中学校では緑

中が最も高い割合になっています。

問3、学年については、小学6年生が28.7%と最も高い割合となっています。

5ページからは、「学校での取組について」の設問となります。こちらはのちほど別資料を含めて説明をする現行計画の評価につながる設問を含んだものです。

問4「学校の中で、自分の意見と違う意見でも聞くように心がけていますか」については、「強くそう思う」が50.2%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が44.2%となっています。

「そう思う」の合計は9割半ばを占めています。学年別でも同様の傾向となっています。

問5「学校の中でいやなことを言われたり、されたりした時に助けてくれる人がいますか」について、全体では「強くそう思う」が45.6%、「どちらかといえばそう思う」が36.5%で、合わせて8割を占めています。学年別にみると、いずれも「そう思う」の割合が8割台となっています。

問6「学校の先生が、いじめを減らす努力をしてくれていますか」について、全体で「強くそう思う」が43.0%と最も高く、続いて「どちらかといえばそう思う」が35.4%で、合わせて7割台が「そう思う」となっている一方、「そう思わない」が1割台になっています。学年別にみると、小学生では「強くそう思う」の割合が高くなっていますが、学年が上がるにつれて低下する傾向が見られます。

問7「学校の体験活動で学ぶことが多かったですか」について、全体では「強くそう思う」が58.1%、次いで「どちらかといえばそう思う」が32.6%です。合わせて9割台が「そう思う」となっています。学年別では、いずれの学年も「強くそう思う」も割合が最も高くなっていますが、中学1年生では5割台前半で、その他の学年と比べて低い傾向が見られます。

問8「道徳の授業をつうじて、人と共に生きる自分自身の生き方について、考えを深めるようになりましたか」について、全体では「強くそう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて8割半ばとなります。学年別にみると、小学5年生で「強くそう思う」の割合が高い傾向が見られます。

問9「学校全体や学年、クラスのルールを作る時に、自分の意見を言う機会がありましたか」では、「どちらかといえばそう思う」が

40.0%と最も高く、次いで「強くそう思う」が34.2%となっています。合わせて7割半ばが「そう思う」となります。一方、2割程度が「そう思わない」となります。学年別では小学5年生で「強くそう思う」の割合が高くなっています。

問10「学校で朝読書や読書週間など、読書に関する活動が十分にあったと思いますか」について、全体では「強くそう思う」が50.1%、「どちらかといえばそう思う」が34.9%で、合わせて8割半ばが「そう思う」となっています。学年別では、いずれの学年も「強くそう思う」が最も高くなっていますが、中学生では5割台で小学生と比べて高い傾向が見られます。一方、小学6年生では「強くそう思う」が低くなっています。

問11「学校で外国の言葉や文化を学びたいですか」については、全体で「どちらかといえばそう思う」が36.9%と最も高く、次いで「強くそう思う」が35.7%となっています。合わせて7割台が「そう思う」で、一方「そう思わない」が2割台となっています。学年別にみると、学年が上がるにつれて「強くそう思う」の割合がわずかながら低下する傾向にあります。

問12「学校での音楽鑑賞や芸術作品の鑑賞などで、感動したことがありますか」について、全体では「どちらかといえばそう思う」が36.8%、「強くそう思う」が31.2%と、7割弱が「そう思う」となります。学年別にみると、いずれの学年も「そう思う」が6割台から7割台となります。

問13「学校での行事や活動で、これまでと違うやり方を試したり工夫をしましたか」について、全体では「どちらかといえばそう思う」が47.2%、「強くそう思う」が32.6%と8割弱が「そう思う」との回答になります。学年別にみると、中学1年生で「そう思う」の割合が低い傾向になります。

問14「バリアフリーや障がいについての理解が入学時よりも深まりましたか」について、全体では「強くそう思う」が53.5%、「どちらかといえばそう思う」が35%と「そう思う」が9割弱となります。学年別にみると、学年が上がるにつれて「強くそう思う」の割合が低下する傾向があります。

問15「先生は授業のめあてや目標を分かりやすく示して教えてくれますか」について、全体では「強くそう思う」が49.3%、「どちらかといえばそう思う」が41%と、約9割が「そう思う」と回

答しています。学年別にみると、小学生で「強くそう思う」が5割半ばである一方、中学生では4割前後と若干低い傾向となっています。

問16 「学校生活の中での課題や問題を解決するために、対話することを大切にしていますか」について、全体では「強くそう思う」が45.7%、「どちらかといえばそう思う」が43.5%で、9割弱が「そう思う」と回答しています。学年別にみると、いずれの学年も「そう思う」が8割台後半から9割台前半となっています。

問17 「授業でコンピューターを学習の道具として様々なことに使っていますか」について、全体では、「強くそう思う」が62.9%、「どちらかといえばそう思う」が28.7%と、「そう思う」が9割を超えています。学年別にみると、いずれの学年も「強くそう思う」が最も高くなっていますが、学年が上がるにつれ低下する傾向があります。

問18 「毎日少しでも運動する習慣を身に付けていますか」について、全体では、「強くそう思う」が52.4%、「どちらかといえばそう思う」が27.1%と、「そう思う」の割合が8割弱となります。学年別には大きな差異はありません。

問19 「食材や栄養など食べることについて学びたいですか」について、「強くそう思う」が39.2%、「どちらかといえばそう思う」が39.1%、合わせて8割弱が「そう思う」となっています。学年別では、小学生で「強くそう思う」、中学生では「どちらかといえばそう思う」も割合がそれぞれ最も高くなっています。

問20 「毎日の給食を楽しみにしていますか」について、全体では「強くそう思う」が61%、「どちらかといえばそう思う」が28.2%で、「そう思う」が9割弱となります。学年別の大きな差異はありません。

問21 「学校の活動に地域の人たちが協力してくれていますか」について、全体では「強くそう思う」44.3%、「どちらかといえばそう思う」38.2%と「そう思う」割合が8割強となります。学年別では、小学生で「強くそう思う」の割合が高い傾向が見られます。

問22 「登下校時に地域の人たちが見守ってくれていますか」について、「強くそう思う」が35.1%、「どちらかといえばそう思う」が33.3%と7割弱が「そう思う」と回答しています。学年別にみ

ると、小学生に比べ中学生で「そう思う」とする割合が大きく低下する傾向が見られます。

問23「放課後に安心して過ごす場所が無くて困ることがありますか」について、全体では「まったくそう思わない」が63.5%、「どちらかといえばそう思わない」が15.1%と「そう思わない」割合が8割弱となります。学年別にみると、いずれの学年も「まったくそう思わない」が最も高くなっていますが、中学2年生では他の学年と比べ、その割合が低くなっています。

問24「先生は自分たちに向き合う時間を十分にとってくれていますか」について、全体では「どちらかといえばそう思う」が41.9%、「強くそう思う」が37.3%で、8割弱が「そう思う」と回答しています。学年別にみると、学年が上がるにつれ「強くそう思う」の回答が低下する傾向が見られます。

以上が学校での取組についての問となります。

続きまして、26ページからが「主観的幸福について」のカテゴリーになります。

問25「学校に通うのが楽しいですか」について、全体では、「どちらかといえばそう思う」が41.1%、「強くそう思う」が38.3%、合わせて8割弱が「そう思う」と回答しています。学年別では小学6年生で「強くそう思う」の割合が最も高くなっています。

問26「自分や周りの人たちを大切に思いますか」について、「強くそう思う」が66.1%、「どちらかといえばそう思う」が28.2%と「そう思う」の割合が9割半ばとなっています。学年別にみると、いずれの学年も「強くそう思う」の割合が最も高くなっていますが、学年が上がるにつれて、その割合は低下する傾向が見られます。

問27「今、毎日続けて頑張っているものがありますか」について、全体で「強くそう思う」が60.4%、「どちらかといえばそう思う」が26.7%で、合わせて8割半ばが「そう思う」となります。学年が上がるにつれ、「強くそう思う」の割合が低下傾向にあります。

問28「わからないことがあれば進んで調べようと思いますか」について、全体では「どちらかといえばそう思う」が45.5%、「強くそう思う」が38.8%と「そう思う」の割合が8割強となります。学年別にみると、中学1年生で「強くそう思う」の割合が低い傾向が見られます。

続いて、30ページが「悩み・相談について」になります。

問29「今感じている心配ごとや悩みは次のうちどれですか」について、「とくに心配ごとや悩みはない」の割合が44.2%と最も高くなっていますが、「進路や進学に対すること」が23.5%「夢や目標のこと」が22.6%となっています。学年別にみると、中学2年生で「進路や進学に対すること」、その他学年では「とくに心配ごとや悩みはない」がそれぞれ最も高くなっています。

問30「心配ごとや悩みを誰に相談することが多いですか」について、全体では「家族」が56.3%と最も高く、次いで「友だち」が53.4%となります。一方で「相談できる人はいない」の割合が4.9%となっています。学年別にみると、小学生では「家族」、中学生では「友だち」が最も高くなっています。

続いて、32ページからの「部活動について」は、中学生のみに対する問になります。

問31「今後、休日の部活動は地域の活動に移行していきませんが、部活動の地域移行について、どのように思いますか。」について、「よくわからない」という回答が48.4%と最も高く、次いで「参加したい」が31.6%、「参加したくない」が19.1%となります。学年別にみると、中学2年生では「参加したくない」の割合が高くなっています。

問32「参加したい」を選んだ理由について聞いています。全体では、「自分が好きな活動が選べる」が51.5%、次いで「新しい関係づくりができる」が47%となっています。学年別にみると、いずれの学年も「自分が好きな活動が選べる」が最も高くなっています。

問33「参加したくない」を選んだ理由になります。「休日に活動したくない」が61.6%と最も高く、次いで「新しい関係づくりがめんどろ」が37.6%と続いています。学年別にみると、いずれの学年も「休日に活動したくない」が最も高くなっています。

続いて、35ページは「自由記述」です。回答内容について、表のとおりカテゴリー分類をして、件数を表記しています。

「授業について」、「学校生活について」、「学校設備について」、「部活動・クラブ活動について」、「教師・先生について」、「パソコン・クロームブックについて」、「いじめ問題について」、「友人関係について」、「休み時間について」、「給食について」、「進路について」、「その他」といった項目の内容を記載いただきました。こちらの記載方

法は調整中となっています。

以上が資料1の説明となります。

続いて、資料2の説明に移ります。「児童・生徒アンケート調査結果からみる現行計画の評価」をご覧ください。

こちらは今説明したアンケート調査結果を基に、子供たちの目線で、現行計画の第3次教育プランの体系の中の主要事業の1から23までに対応する形で、アンケートセットを設計しました。その結果に基づいて、子供たち目線でどのような評価をされたかというものになります。

①は「人権教育に係る教員研修の実施」が、アンケートの間4と対応しています。この調査結果のうち「強くそう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせたものを基に、A～Eの評価を記載しています。「学校の中で自分と違う意見でも聞くように心がけていますか」に対して、「強くそう思う」が50.2%、「どちらかといえばそう思う」が44.2%で、合わせて94.4%が「そう思う」という肯定的な回答割合となります。これをA～Eの評価に照らし合わせると、90%以上でA評価となります。

同様にアンケート調査結果のすべてではありませんが、子供目線で評価できる項目について、アンケート結果を基に評価したものが資料2となります。「関連する自由意見（問34）」がありますが、先ほどの説明の中では現在記載方法調整中としましたが、原文のままではありませんが、内容としてこのような回答があったものを子供たちの考えを直接把握できるものとして、提供させていただきました。

①では「学校生活ではもっとたくさんいじめなどの人権や、人の心について学ぶ機会がほしい」との意見がありました。子供たちからはA評価をいただきましたが、令和3年度から5年度にかけての行政評価を、参考として記載しています。行政評価は3カ年、A評価でした。子供たちの評価もおおむね高いという結果と照らし合わせて、この評価については子供と大人の目線が一致していたと見ていただければと思います。

②の「いじめ防止対策推進条例の周知と運用」については、問5の中で、「学校の中でいやなことを言われたり、されたりしたときに助けてくれる人がいますか」は、82.1%が肯定的な回答であったため、B評価をつけています。自由回答では、「いじめを解決する方

法をしっかりと提示してほしい」「いじめという行為を犯罪として認識できていない方々がいるため、法律に関する教育を更に強化したほうが良いと思う」という意見がありました。行政評価も3カ年でBとなっており一致しています。①と②を合わせて、「施策 1 人権教育の推進」という柱となっています。

続く、③から⑤が「施策2 思いやりや公共心の育成」に関するものになります。

問6では「学校の先生がいじめを減らす努力をしてくれていますか」について、78.4%という結果になります。評価としては、70点以上でCをつけております。自由意見としては、「先生にいじめのことを伝えているので対処してくれた」といった回答がありました。行政評価としてはBがついていますが、子供たちからの評価は若干厳しいものとなっています。

④の「体験活動・ボランティア活動の充実」はA評価で、自由意見としては、「もっと校外活動を増やしてほしい」、「社会科見学などのお楽しみを増やしてほしい」といったものがあります。令和5年度のみ評価されており、行政評価上はBとなります。

⑤の「道徳教育の充実」は問8ですが、B評価で、行政評価はA評価となります。

このように、一つ一つ評価を比べていただけるようにしておりますが、⑥「その子らしさを伸ばす教育の推進」と⑧「国際社会を生きるための語学指導の充実」がC、⑨「個性や創造力を育むための文化的行事の充実」がD、⑭「体育・健康・安全教育の充実」、⑮「食育の推進」、⑲「通学路の安全確保」、⑳「豊かな放課後の居場所づくり」、㉓「教員の働き方改革」という項目で、子供たちの評価が若干低い傾向が見られます。

23の主要事業がありますが、児童・生徒からの回答結果は、19の主要事業に対する評価をおこなっています。結果、A評価の肯定的回答が9割を超えるものが4事業、B評価の80%以上のものが6事業、C評価の70%以上のものが7事業、D評価の60%以上が2事業、E評価の60%未満が0となっています。また同様に、3つの基本方針に対しての総合評価を、問26、27、28で聞いており、それらはそれぞれA、B、Bとなっています。

これらの評価結果のほか、子供たちからのさまざまな意見が、数値上の評価だけではなくみ取れない貴重な視点を提示しておりますの

で、これらの意見も計画の振り返りの中で、今後の策定に向け十分に生かしていくことが求められています。

末松会長

ありがとうございました。

かなりの情報量ですが、横向きのものがダイジェストで、次の計画策定に向けて見やすくまとめていただいて、行政評価との対応関係のまとめを作っただけという事ですか。詳細が知りたい時には資料1を見ていただいて、より細かなデータを見ていただくということです。

今次の計画は大きく3つの基本方針がございます。この3つのカテゴリーの中に施策1、施策2がありますので、基本方針1つごとに区切って、皆さんからご質問やご意見、確認をしていただきたいと思います。

先日、皆さんと傍聴された方から、自由記述で意見をまとめてはというご意見をいただいたので、実施していただきました。メッセージとして私たちが真摯に受け止めるべき内容もありました。資料2で分かりやすく加工して、ピックアップしていただいています。今回のアンケートについては、無記名で個人が特定されないことを約束していますが、自由記述でかなり具体的な個人名や、そのまま載せてしまうと個人の特定や人権侵害になってしまうような恐れがあることが見受けられるようです。資料1の結果報告書は公開されるので、そのほかの大人が回答したものと同じように載せるのは、教育領域では慎重であるべきだと思います。

本来のこのデータを取った目的は、前向きに次の計画に向けて子供たちにたくさんいい意見を出してもらいたいことだと思います。一人の意見でも尊重されるべきことがたくさんあると思います。せっかくいい内容が出てきていますので、それがインターネット上で一人歩きをしたり、デジタルタトゥーになりかねない問題がありますので、そこはわれわれも慎重になりたいと考えます。

事前に事務局からそういう話を伺って、私だけがそれを読むのは公平ではないと思ったのでまだ見ていません。皆さんにお諮りした上で、これをどう扱うかについて審議すべきだと思います。全体的な状況しか伺っていませんが、慎重に取り扱っていくべきだと思います。今の段階としては調整中ということで、公開するものとして、件数だけ載せていただいています。次期計画に向けて参考

にする主な内容については、資料2の右から4行目に載せていただいています。これくらいの扱いのほうが、次期の改定に向けてデータとして問題なく扱えるのではないかと受け止めています。このことを皆さんにご確認いただきたいと思います。事務局からも簡単に、経緯や取り扱いについてのお考えをお伺いできればと思いますがいかがでしょうか。

鈴木庶務課長 資料1の自由記述欄の取り扱いについては、留意する必要があると考えています。このアンケートを実施する際に、自由記述欄の公表について了承を得ていませんし、結果から児童・生徒や先生等への影響が考えられることから資料1については、カテゴリー別の件数での記載を考えています。

資料2の自由記述の内容については、次期計画書の作成の際に参考させていただければと考えています。

末松会長 大学でもこういうアンケートをおこなうと同じようなことがあります。いいメッセージもありますので、そこに向き合っていけるような形で検討していただければと思います。皆さんからこの取り扱いについてお考えがありましたら、ご発言いただければと思います。

嶋内委員 公表する扱いに関しては賛成です。センシティブな内容が含まれますので、これだけの件数があつたということだけで十分だと思えます。一方でこの委員の中で検討するにあたっては、かなりの件数を子供たちが書いてくれているので、それに対して、各項目1から2個というのはもったいないと思います。難しいものはあるかもしれませんが、委員の中ではもう少し検討材料としてあつてもいいかと思えます。

末松会長 もう少しいくつあつてもいいのではないかというイメージですね。今はかなり厳選している感じですか。

委託事業者 資料2に記載しているのは、あくまでも分かりやすい象徴的な内容をピックアップしたものとなります。同じような回答もありますし、少し異なるものもあるので、全部を入れると結構な分量になる項目もあります。1項目一人ではなく、一つの意見の中に項目が複

数含まれている回答もありますので、その件数がこういう結果になります。具体的な一人一人の回答をそのまま載せてしまうと、この件数の見方も違うものになると思われそうですし、重複、再掲という形になるかもしれません。そのあたりの記載のあり方も含めて、少し検討させていただきたいと思います。

小平庶務係長 補足説明をさせていただきます。資料2に掲載した自由意見については、資料のボリューム的に絞って抽出をしています。もう少し件数を記載した方がよいという意見に関しては、一定程度対応できると考えております。

末松会長 資料を独立したものにして、外に出さないという前提で自由記述の概略のような資料を作ることは可能ですか。

小平庶務係長 先ほど説明した件数に関しては、重複しており、件数分の方の意見が出ていると見られてしまうので、表示方法については再度検討したいと思います。

末松会長 もう少しデータがあれば、ニュアンスも知りたいということでもよろしいですか。

嶋内委員 数値の評価は、現行プランに対する評価の傾向が見られると思いますが、今後プランを立てていく上での材料として、実際の声が一番参考になると思うので、次を考える時にもう少しあった方がいいと思いました。

末松会長 では、補足をする感じで、取り扱いは資料1のようなもので、件数については修正の可能性があるということです。

中村委員 ここに書きづらいような自由記述があったということについて、深尺度やどういう内容かにもよりますが、書くことが難しいからといって、なかったことにしているのかということもあると思います。個人が特定されることについては、個人名を伏せることは必要であると思いますが、本来、対処が必要なことをどうするかということもあると思います。

もちろん書いてあることが本当かどうか分からないですし、アンケートの趣旨として、個人を特定する目的には使わないとなっていて、書いた本人が対応を求めているのかも分からないです。下手に対応して逆にまたいじめがひどくなることもあるので、その対応は難しいと思います。

教育プラン策定に関しては、アクションが必要と見込まれないものは、個別のいじめ案件などの具体的な表記はなくていいと思いますが、施策として考えなくてはいけないものについては、その意見は載せるか、少なくともいろいろな影響を考慮して割愛していますという記述はあったほうがいいと思います。個別にアクションしないとエスカレートする懸念があるものについては、学校の現場がどう対応するか検討していただければと思います。

末松会長 固有名詞や個人名があるものを全部排除しているのではなくて、検討が必要なことについては、言い換えて載せるようにしています。

委託事業者 極力そういう形で載せるように検討したいと思います。

末松会長 今おっしゃったご心配については大丈夫かと思っています。子供たちの切実な声は、各学校で行われるアンケートでも聞いていると思います。

小平庶務係長 一番大切なのは次の計画に反映できることだと思っていますので、その観点でピックアップできるような形で見ていきたいと思っています。

載せられない自由記述については、一言明記した方がいいと思いますので、どういう基準で載せられなかったか委託事業者と表現方法について考えたいと思います。

末松会長 個人情報とプライバシーの問題が一番大きいです。それを配慮して、個人が特定されるようなことについては、掲載を見送っていますくらいでいいと思います。内容については、今おっしゃったようなことは拾えていると思います。

小平庶務係長 そこを考慮して、問3 4の結果報告を修正したいと考えています。

末松会長 私たちは積極的に子供たちの声を聞いて、いい内容を作っていきたいと思いますので、自由記述の取り扱いについては、今議論した内容で進めていきたいと思います。この件に関しては、のちほどご意見があればご発言いただきたいと思います。

 資料2の基本方針1に該当する、施策1「人権教育の推進」と施策2「思いやりと公共心の育成」について、ご意見、ご質問等いただければと思います。

中村委員 アンケートの結果としてどうかということなのか、アンケートを踏まえて次の施策に向けての意見なのかどちらでしょうか。

末松会長 その中間と考えていただきたいです。まず、データの解釈の仕方などに共通理解があったほうが良いと思います。

中村委員 6ページの間5「学校の中でいやなことを言われたりされたりしたときに助けてくれる人がいますか」という質問に対して、「強くそう思う」「そう思う」という回答が多いですが、いじめられている子はマイノリティで友だちが少ないとか、助けてくれる人がいない子がいじめられるので、「まったくそう思わない」「そう思わない」という回答の重要度が高いと思います。否定的な意見の比率が高いので注意が必要だと思います。いじめられる子の大半がこの中に入っていると思うと、安心できない数字だと思います。

末松会長 学校の先生方はこれをどう読み込んでいくのが良いと思われませんか。

黒木委員 おっしゃるとおりで、助けてくれる存在が見当たらない子は学校として、なんとか手を差し伸べていく必要があると考えます。この数字は決して小さい数字ではないと思います。小学校から中学校まで10%くらいが否定的な回答だということは、大きな数字だと思います。

末松会長 全体の数字から見て、10%という相当数になります。

新井委員 まったく同感で、イメージとして年を取ると増えるかと思いきや、あまり変わらないと感じました。中1、2で「そう思う」が減っていますが全体的に低いと感じました。

末松会長 報告書の文章もポジティブな評価についての説明だけではなくて、10%や6.2%の数字に注目するような記述があってもいいのではないかと思います。一人でもそう感じている人がいるというのは大きな問題だと思います。その人が学校生活をどう感じるかということは全体にも影響があると思います。このあたりの表現についても検討していただければと思います。

中村委員 7ページの間6について、同じ先生に対していろいろな生徒がこういう回答結果になると解釈するのか、いろいろな先生がいる中であまりやっていないという解釈なのかによります、先生にばらつきがあるのか、同じものを見ても生徒によって受けた印象が違うのかということです。実際は両方の結果が出ていると思います。生徒は先生の活動全体を見ているわけではないので、ばらつきがあっても当然ですが、先生側の対応にばらつきがあることが問題ではないかと考えます。

末松会長 自由意見だと担任の先生とか具体的な部分も出てきますが、事業者としてはどう解釈していますか。

委託事業者 学校で接する先生は限られていますので、その先生に対しての感想と捉えています。

末松会長 担任の先生をイメージしていても、学校の先生はそういうものだというイメージを持つということですか。

委託事業者 学年の中でいじめの問題に対処してくれる先生は、生徒側もイメージしているので、その主要な先生方に対してのイメージや感想と捉えてもいいのではないかと感じています。

末松会長 ここについては、ほかの記述も見ながら読み解いていきたいと思っています。

中村委員 次回実施するなら、「いじめを減らす努力は十分ですか」「不十分ですか」というような聞き方をすれば、生徒の気持ちが伝わる回答が得られると思います。

末松会長 ここは大事なところなので、単純に数字だけを見るのではなく、解釈を加えて少数の声をきちんと拾わないといけないと思います。
施策1、施策2に関してほかにかがですか。

嶋内委員 8ページの間7の学校の体験活動について、中学1年生だけが「強くそう思う」「どちらかといえばそう思う」が顕著に低いのですが、中1は少ないのでしょうか。

新井委員 小6とのギャップかなと感じました。1年生だけ宿泊行事がないということは大きいかと思います。6年生は修学旅行がありますが、中1は校外学習が1日あるだけです。

末松会長 中学校1年生は素直に答えているということですね。カリキュラム上やむを得ずそうなのですか。

新井委員 宿泊に関しては市の教育委員会で決まっていますので、独自で設定している学校はないと思います。

嶋内委員 日帰りも1回だけではなくて複数あります。川越で校外学習があって、浅草にも行ったと思います。

新井委員 それはたぶん学校独自でおこなっていると思います。本校は1回です。

嶋内委員 それにリンクした回答が出ていることを理解しました。

末松会長 学校サイドから何か気になることはございませんか。

黒木委員 行政評価と今回のアンケートを基にした評価の基準が違うので、比較できないと書いてありますが、実際にそうなのですか。ある程

度は傾向として関連付けて見ていいものですか。教えていただければと思います。

末松会長 それぞれの回答について、大枠をつかむという感じだと思います。基準や評価プロセスが全然違うので、単純比較はできないと思います。

委託事業者 大枠としては、行政評価のほうがより多面的な評価になっていると思います。ピンポイントで子供が感じている肌感覚の評価としての見方ができるのが、子供側のアンケート結果の利点だと思います。多面的に見られている訳ではないので、いじめの問題にしても先生方がされていることの全体像が見えていないですが、子供が自分はどう見えているという部分を、子供の目線から指摘している資料だと思います。

小平庶務係長 行政評価については、P D C Aサイクルで評価をしています。年度当初に各課で目標の設定をして、それについて年度末に評価をおこなうことになっています。今回の子供のアンケートの評価と、立ち位置は違うと事務局として考えております。

黒木委員 並べて書いてあると、全体として落ちている要因があるのかと思います。単純に比較するものではなく、あくまでも参考として考えていいということですね。

嶋内委員 令和6年度の行政評価はこれからおこなうのですか。

小平庶務係長 令和7年度になってからとりまとめるので、今の段階ではお示しできません。表に出せるのは市議会の9月議会後になります。

新井委員 7ページの間6「教員がいじめを減らす努力をしていますか」に関して、中1と中2が顕著に減っているのがとても気になります。「努力」という言葉が具体的に何を示しているのか、例えば話を聞いてくれないとか、学活で注意してくれないなど、どういうことをイメージして子供たちが答えたのかとても気になります。

末松会長 これについては、自由記述を見ながら考えたいです。重複していても微妙な差があったりすると思いますので、それも見ながら考えていきたいと思っています。

嶋内委員 センシティブな内容なので、個別対応していて子供たちに見えていない可能性もあると思います。そこがどう評価されているのか気になります。表面的なところで感じているのか、個別対応をしてもらった上でそう感じているのかということも見ていかないと分からないかもしれません。

末松会長 この部分はポイントになると思います。
先に進みたいと思います。基本方針2、施策3「個性と創造力を伸ばす教育の推進」、施策4「特別な支援を必要とする児童・生徒の教育の充実」について、ご質問、ご意見、確認等お願いいたします。

中村委員 資料1の10ページ、問9「学校全体や学年、クラスのルールを作る時に自分の意見を言う機会がありましたか」について、意見について手を上げていう人と、当てられないと言わない人がいます。チャンスを生かせなかった人、生かした人、チャンスがなかった人、チャンスをつくろうとしたが駄目だった人などがあると思います。それを回答の選択肢にすると、どの要因が多いのかという部分がはっきりするのではと思いました。今後のアンケートへの反省として提案したいと思っています。自由意見を見ると、多くの人が積極的に発言できていないような印象を受けました。発言しやすい環境をつかって、積極性を育むことができればいいと思います。日本人は消極的な人が多く、アグレッシブな人が少ないので、今後の国際的な活躍も含めて、積極性を強化できればと思います。

末松会長 小学校でも中学校でも、先生方は大変努力をされていると思います。意見を言いたくないという子どもも含めて、いろいろな発言の機会を作っていると思います。
これはどういう読み込みをすればいいと思いますか。

黒木委員 ルールを作る時に意見を言うというのは、生徒指導提要の改訂で、学校の決まりについて、子供たちが意見を言って変えることができ

る等の内容を反映したものだと思います。このアンケートの結果は、改訂前では考えられなかった結果だと思います。

7～8割が「どちらかという機会があった」と回答しているのは大きいと思います。自由意見で「一人一人が意見を言いやすい学校を作っていきたい」「好きなことを言える時間がほしい」というのは、そういう時間がなく、ある程度限ってここまでにしようということもあると思います。クロームブックでアンケートを自由に書いて出してもらうこともあります。5、6年生であれば可能だと思います。

末松会長 環境や権利を認める段階から、質的な模索に入っているようなイメージですね。

質的にもっと高められるようなことを把握するために、質問の工夫もあり得たのではないかということですかね。

中村委員 どのレベルのルールなのですか。ゴミ箱をどこに置くかという程度なのか、制服や髪型などの話なのか、具体的にはどんなルールの話でしょうか。

黒木委員 話し合うのはクラスの決まりです。例えば友だちとの関わり方や、発言する時には手を上げるとか、そういうことです。服装に関しては全然ルールはないので、皆が気持ちよく学校生活を送るために皆で守ろうというレベルのルールです。

中村委員 学校としての規則や校則よりも、クラスやコミュニティの暗黙のルールみたいなものを決める感じですか。

末松会長 中学校は少しニュアンスが変わりますよね。

新井委員 校則の見直しを今年度におこないました。生徒会を中心にして、生徒の意見を取り入れていろいろと改定しました。

末松会長 自治的な、年齢が上がれば自分たちのことは自分たちでルールを決めるということですね。

新井委員 学校全体という校則の見直しが入ると思いますが、学年やクラスのルールは、年度初めにクラスの目標を作ったりして、クラスのルールを子供たちは意識するのではないかと感じました。また、生徒会が前期と後期に入れ替わる時のルール作りなどに関してだと思います。中学校では年に1回か2回くらいしか意見を交換する場がないので、「機会がありましたか」という質問に対して、「あまりない」と答えてしまうのではないかと思います。

末松会長 質問の意図として、事業者や事務局はここをターゲットにしたということはあるですか。やはり校則などそういうイメージですか。それとも日常の話しやすさとかそういうことですか。

委託事業者 一番大きなものは校則だと思いますが、日常での給食で余ったものをどうやって分けるかなど、そういう話し合いも含めて、自分が思っていることを表明する機会を持たせたかというところを意図しています。

小平庶務係長 事務局としても、学校全体、学年、クラスという小さいカテゴリーでもルールを作る時のことを聞いていて、校則に限らず幅広くルールに関しての想定をしています。

嶋内委員 自由記述が、自由に発言できるようにというニュアンスが含まれているので、設問の意図が子供たちに伝わっているのではないかと思います。その子らしさを伸ばすというところで、ほかの設問よりも「強くそう思う」が低く30%台なので、分析して少し上げたいと思うところです。

末松会長 この辺は日本の大きな課題としてあると思いますので、慎重に検討していきたいと思います。よくなってきているとは思いますが。

嶋内委員 学校公開に見に行くと自分たちの時代に比べて、特に小学校でグループワークが非常に多くなっていますので、言える機会がすごく増えているのではないかと思います。

11ページの問10「朝読書や読書週間など」について、中学1年生の「強くそう思う」の割合が高い理由が知りたいです。小学校

では読書旬間に、PTAが絵本の読み聞かせをしています。そこまで保護者が関わっている小学校よりも、中学生のほうが多いのは何をしたらこんなに「そう思う」と答えるのか知りたいです。

新井委員 本校では、月曜日以外は朝読書をおこなっています。確実に1日10分以上は読書をしていることもあると思います。あとは頻繁に、図書委員会で活発に推薦図書を出す機会があります。

末松会長 小学校から見ると、この数字はどうしてこんなに差がつくのでしょうか。

黒木委員 この結果を見た時に心外でした。小学校では読書週間や読書月間や、PTAやボランティアが読み聞かせをおこなったり、いろいろ工夫しているつもりでした。

末松会長 小学校の努力を中学生が初めて理解したということではないですか。

黒木委員 中学校で毎朝10分は読書していると聞いて、物量の差だろうと思いました。小学校では朝は集会や学級の時間で、毎日読書に割り当てることはできないのです。

末松会長 受ける印象が少し違いますよね。本当の効果はたぶん、両方あると思いますが、そのあたりの差が大きそうです。

嶋内委員 明確にその時間が決まっていれば、生徒が認識していて「そう思う」と答えます。

末松会長 回答したのもその時間のあとかもしれないですし、たぶん印象が違うのでしょうか。小学校で実施していないわけではないことが分かりました。

末松会長 方針2については大丈夫でしょうか。

嶋内委員 13ページの間12「学校での音楽鑑賞や芸術作品の鑑賞などで、

感動したことがありますか」にDがついているのが気になります。

末松会長 中学1年生とか気になりますね。

中村委員 これは妥当だと思います。ヒットしたアニメは、ストーリーで感情移入して、アニメの絵で盛り上げて、さらに音楽で感動を喚起して3つの要素で複合的に盛り上げています。こうしたコンテンツに慣れた子供たちにとっては、絵画だけ、音楽だけ、小説だけだと感動が薄いと思います。絵でも8Kの高精細なものや、CGなどたくさんある中で、古い絵画を見せられても感動しないのは当然だと私は思います。

芸術や創造性を育むためには、いかに感動できるコンテンツを作るかという作り手のほうに意識が向かないといけないと思います。絵を見せて音楽を聴かせて才能を伸ばすのは時代遅れで、複合的に使ってより強い感動や今までにない感動をどうやってつくっていくかというほうに観点をシフトしないといけないのではと思います。読書も読むだけではなくて、自分はどんな物語を作るか、どんな思想を表現するのかというほうに意識を向けないといけないと思います。日本はコンテンツが強いと言われていますが、さらに先を行くためには、受動的で歴史的な芸術の見方を変えていかないといけないと考えます。

新井委員 学校での音楽鑑賞や芸術作品の鑑賞は、音楽の授業や美術の授業を想像すると思います。ビデオ鑑賞やクロームブックを使ったりしますが、確におっしゃるとおりだと思います。歌舞伎やオペラや文楽を鑑賞して、幅広く知るという意味では教えていると思いますが、それで感動までするのかというところはあると思います。

末松会長 それは本来補い合える部分ではないでしょうか。コンテンツの優れたものを見ると、絵も見てみようとか、その人がどういう絵から影響を受けたのか知りたいと思ったりします。

嶋内委員 おっしゃるとおりだと思います。学校教育では絵画の歴史などを網羅的に教えていくことがメインで、それぞれのもので感動させるとかではないですね。

新井委員 そうですね。まずは手がかりをつけて、あとは興味を持ったところに子供たちがそれぞれ目を向けていくというところだと思います。感動というところまでは厳しいと思います。

末松会長 基本方針3に移りたいと思います。施策5から施策8までいかがでしょうか。

嶋内委員 小学校の公開授業に見に行くと、授業の最初に先生が今日の「授業のめあて」を示しています。それを見た子供たちが問15で「そう思う」と答えているのだと思いました。

18ページの問17の「コンピューター」のところは、子供たちから聞いている感覚とマッチしていると思いました。小学校では非常にタブレットを使いますが、中学校に入学した途端に使わなくなって、もう少し使いたいと言っている子供たちが多いです。小学校と中学校の大きなギャップを保護者や子供たちから聞いているので、それがそのまま数字に表れていると感じました。おそらく小学校のほうが工夫してタブレットを入れやすく、自由度が高いのではないかと思います。中学校は勉強が難しくなってきた、タブレットを使うような応用を利かせるのが難しいのかと思いました。

末松会長 データの的にも小学校と中学校の違いが出ていますが、今の意見についていかがですか。

新井委員 おっしゃるとおりだと思います。中学校もこの1、2年ですぐぶんタブレットを使って授業を進めるようになってきましたが、教科によって偏りがあります。どうしても紙でという部分があるので、そこが反映されていると思います。

末松会長 先進国ではまた紙に戻っているという大きな動きがあります。

嶋内委員 22ページの問21「学校の活動に地域の人たちが協力してくれていますか」、23ページの問22「登下校時に地域の人たちが見守ってくれていますか」は、小学校のPTAが通学路の見守りをよくしているので、現状が数字として表れていると思います。中学生は

不審者情報があるので見守りをしたほうがいいと思いますが、横断歩道で旗を振るのは小学校のイメージがあります。

中村委員 問い方として、「見守りが十分だと思いますか」と、中学生は見守りが必要だと思っていないから、十分と答えると思います。

末松会長 そのあたりは工夫をお願いしたいと思います。小学校と中学校では実情やニーズが違います。

中村委員 16ページの間15の「授業のめあてや目標」ですが、1限の目標を指すのですか。長期的な目標や将来何に必要なのかということではなく、今日は何をするかということですか。

末松会長 小学校は45分のめあてというイメージだと思います。

黒木委員 その時間にできるようにしてほしいことです。

末松会長 授業のユニバーサル化で、それがないと不安に思う子がいるのです。秋田県から始まったことで、それがあると学力が高いと言われている。中学校もそんなに変わらないですか。

新井委員 中学校もその1時間で何をするかということ、最初に伝えるようにしています。

中村委員 受験をして思ったのは、より要領よく勉強するために、1時限中ではなく、中学3年間など長期的な学びのロードマップを見せてもらって、ここで学んだのはこっちでも影響するのだとかいうことを知れば、分からなくてももっと努力できたと思うのです。

末松会長 学習指導要領では、ちゃんと使えるようになるとか、使い方を理解できるとかいうことを先生方は意識していますが、子供たちは「この授業のめあて」という認識だと思います。教育計画やカリキュラムの段階では、先生方は意識されていると思います。

嶋内委員 20ページの間19の「食育」について、小金井市は食育に力を

入っていて、栄養士の方が地場野菜を使って給食を作ったり、今年
は小金井サクラ100周年をテーマにした給食を作ってください
りしているのですが、その割に「強くそう思う」が高くないのが意
外でした。学んではいるけれども、学びたいかどうかは別というこ
となのですか。

大津委員 各学校に一人栄養士がいて、毎回、給食の時間に食材についての
説明などをおこなっていますので、それが当たり前になっていると
いうことかと思えます。

末松会長 ほかを知らないからということなのかと思えます。私はこの数字
は高いと思いました。

嶋内委員 19ページの間18「毎日少しでも運動する習慣を身に付けてい
ますか」が結構高いのが意外でした。小金井市のマンモス校では9
00弱の児童がいるので、休み時間に全学年一斉に外で遊べないの
です。学年単位でしか外で遊ばなくて、雨が降ると出られない学年
もあります。そういうことがこの数字に表れていないのだと思いま
した。最近の猛暑で、プールに年に数回入れればいいという状態に
なっていますが、そこも数字に表れていないのだと思えました。

末松会長 運動習慣について、小学校では特に重点的に取り組んでいるとか、
課題になっていることがありますか。小学校によって違いがある
と思えますが、いかがですか。

黒木委員 規模の大きい小学校では、全員が外にでるのは難しいと思えます。
制限はしていませんが、走り回りたい子は内側というように遊ぶ
ゾーンを決めています。このアンケートを見て、子供は正直だと思
いました。ほとんど同じ傾向で、運動好きな子と体を動かす習慣が
付いている子は同じくらいなのだと感じました。外に出て遊びま
しょうと声かけをしても教室で本を読んだり、友だちとおしゃべり
をしたりすることを好む子も一定数いるので、そのあたりは素直にア
ンケートに出ていると思えました。

嶋内委員 17ページの間16「学校生活の中での課題や問題を解決するた

めに対話することを大切にしていますか」の回答が高い数字でいいと思いました。グループワークに非常に力を入れている結果が表れているのではないかと思いました。

一方、14ページの間13「学校の行事や活動でこれまでと違うやり方を試したり工夫をしましたか」が、「強くそう思う」が30%台なので、新しいことにチャレンジしたり、創意工夫をするという点でもう少し高ければいいと思いました。

末松会長

初めに申し上げたとおり、この分析と課題の共有は今回で終わりではないので、資料をゆっくり読んでいただければと思います。次回、追加の資料も出てくると思います。いろいろところで目標の設定や計画の設定があって、教育プランはここに載せなかったからできないということではありません。

小金井市独自の方向性や、時代の流れや国や都の政策を踏まえた上で、大きな幹を私たちの知恵を出しながらつくっていくものです。一人の発言でも意識して、子供たちが将来大人になって、小金井市で教育を受けてよかったと思ってもらえるような中長期的計画を作っていければと思います。

中村委員

24ページの間23「放課後に安心して過ごす場所がなくて困ることがありますか」について、中学生でも安心して過ごす場所がないと思っている回答が多いと思いました。DVや親が家にいないなどのシビアな質問かと思ったのですが、資料2を見ると、「ボール遊びをする場所がない」という意見があります。これは重く見るべきなのか、遊び場がないくらいの意見として見ていいのか、どちらなのでしょう。

末松会長

作問の意図は両方ですか。

委託事業者

特に課題となるのは、貧困の問題で学習塾や習いごとに行けず、家にも居づらいという子が一定数いますので、そういう子たちの課題を探るという意図がありました。

また、学校が昔ほど気軽に遊んだり立ち入ったりできない環境になっており、どの程度放課後の居場所がないと感じているのかという面も含んだ問いかけになっています。

中村委員 ボール遊びをする場所と併記されていると、深刻度が低いようにミスリードされる気がします。深刻なパターンが多いのであれば、その例を書いておかないと、軽く取られてしまうのではないかと感じました。

末松会長 バランスを取るように検討をお願いします。
今回、ポイントをたくさん示していただきました。次回以降も出てくると思いますが、事務局のほうでアンケートと今回の議論とその他のことを踏まえて、次回以降の課題の共有や、次回の計画策定のポイントなどを検討いただければと思います。
議事(2)今後の日程について、事務局より説明をお願いします。

小平庶務係長 資料3をご覧ください。令和7年度は全6回の検討会議を予定しております。1回目は来月を予定しております。5月には、市内の小中学生を対象としたワークショップの開催を予定しております。

第1回から第3回までの検討会議で、計画の素案を策定する予定です。令和7年8月26日に教育委員会定例会が開催されて、そちらで協議案という形でお諮りする予定です。この会は当委員の出席等は不要です。そのあと、教育委員会の方々からの意見等を踏まえて、第4回の検討会議で素案を完成させたいと考えております。

パブリックコメントに関しては、10月から11月で協議させていただいており、おおむね1カ月程度を予定しております。その後、第5回検討会議でパブリックコメントの結果報告をおこない、第6回検討会議で計画案を完成させる予定です。

最終的にその計画案を教育委員会定例会に提出させていただいて、教育委員の皆様からご議決をいただく予定となっております。なお、日程につきましては、現時点での案となりますので、今後の進捗状況によって変更させていただく場合もあります。日程については以上です。

末松会長 続いて、(3) その他について、皆様から何かございますか。

大津委員 資料の行政評価について、内容はホームページに出っていますが、令和5年度分について、参考にお見せしたほうが分かりやすいと思

いますので、後日提供をお願いします。

嶋内委員

12月くらいに子ども家庭部が開催した、「小金井(しょうがねい)を変えちゃう人の会」に参加しました。非常に斬新で良かったと思います。市内の中学生が30人くらい集まって、グループで学校をこういう場にしたいというようなことを自由にトークする会でした。そこで初めて知ったのですが、他の学年のフロアに行ってはいけないとか、他校に行ってはいけないというルールがあるそうです。そういうことを取り払って、自分たちの学校に閉じていないで、市内の中学生と交流したいという意見がありました。あとはやはり制服や校則の話もありました。文化祭がなくなってしまったけれども、もう一回復活させたいとか、今の中学生の置かれている状況や考えていることが分かって良かったと思いました。同じようなことを予定しているワークショップでされるのですか。

小平庶務係長

ワークショップは、まだ検討中で今の段階では詳細をお伝えすることはできません。「小金井を変えちゃう人の会」に関しては、YouTubeに動画がアップされております。そういったものを参考にしたいと考えています。

嶋内委員

中学生の今の状況や考えが聞けるのは、斬新だと思います。楽しみにしています。

末松会長

ほかにいかがですか。次回は4月下旬です。日程調整については、事務局から連絡があると思いますので、よろしく願いいたします。

これをもちまして、今年度第2回検討会議を終了します。どうもありがとうございました。

閉会 午後8時